

災害支援機能と最先端の調査機能を備えた練習船整備 (兵庫県神戸市)

事業者：国立大学法人神戸大学

I-1 大規模な浸水、土砂災害、地震・津波等による被害の防止・最小化



被災地への物資の輸送に活用できるウインチングエリア（※）を設置

（※）ドローンや空中で停止飛行状態のヘリコプターから物資の吊り上げ・吊り下ろしを可能とするためのスペース



I-2 救助・救急、医療活動などの災害対応力の確保

対策名：No.73 国立大学の練習船を活用した災害支援体制の整備に関する緊急対策

事業名：災害支援機能を備えた神戸大学附属練習船「新深江丸」整備事業

- ポイント**
- 3か年の緊急対策により災害支援機能を強化した代船建造を実施
 - 大規模災害によって陸上からの食料・飲料水・電力等の供給が停止した際に、海上から支援を行える体制を構築

地域の概要・課題

平成7年に発生した阪神淡路大震災は兵庫県南部を中心に甚大な被害をもたらしました。また、平成30年に大阪北部地震が発生したことで、改めて大阪湾断層帯を含む、近畿地域の主要な活断層の存在が認識され、地域社会における大災害への危機感を喚起しました。こうしたなか、災害発生時に迅速に対応できる機能と、災害を正確に把握する機能を有する練習船が必要とされています。

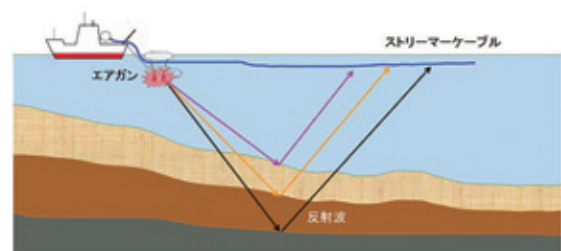
事業の概要

本事業は船齢32年を超えた現行船「深江丸」を更新する事業です。「新深江丸（海神丸）」では現行船の持つ大規模災害発生時の各種支援機能と、最先端の断層調査機能のさらなる充実を図ります。

【見込まれる効果】

「新深江丸（海神丸）」は給水/給電機能と物資輸送機能が強化されており、災害発生時に被災地へ、人が生きていくために必要な水、電気、食料などの物資をより迅速に届けることが可能です。また活断層の活動度評価や地下構造の推定機能の充実により、地震発生時の被災地域の予測や、災害発生後の適切な対応が可能となります。

↓ 反射法地震探査による活断層の評価



I-3 避難行動に必要な情報等の確保